

白蓮会役員挨拶

■会長 舟橋 弘晃 第20代

記

世間では COVID-19 感染の拡大が止まらず、医療機関では大変な状況が続いているようです。岡山大学でも、複数の感染報告が HP に掲載されている状況です。このような状況下で、白蓮会の周年祝賀会や総会を対面で実施できなかったことを、非常に残念に思います。また、その過程でいろいろ混乱を招いてしまいましたことを先ずはお詫び申し上げます。最終的に、皆様のご理解とご賛同を得て、役員提案の議案を全てお認めいただきましたこと、心より感謝申し上げます。今後は、皆様にお送りした理念とビジョンに則り、本会の目的である会員相互の親睦と現役部員の経済的支援を、役員や事務局の皆さんのご助力を得て、進めて参りたいと存じます。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

■副会長 田中 豊 第22代

このたび、副会長に再任されました第22代の田中です。白蓮会会員の皆さまにおかれましては、ますます予測し難い世の中であって、それぞれのお立場でご活躍のことと拝察いたします。この度の白蓮会総会の議案等につきまして、熟慮を重ねてご判断いただき感謝申し上げます。また、事務局のみなさまには、正業ある大変忙しい中、諸処適切な対応をしていただき、頭が下がる思いです。ありがとうございます。

さて、私、岡山大学少林寺拳法部を卒部して、はや34年が経とうとしています。幸いにもたくさんの法縁をいただいたおかげで、現在も少林寺拳法を続けることができます。2007年12月からは一道院長として地域における金剛禅運動(幸福運動)の布教活動に取り組み、13年となります。道院長としての経験はまだ未熟ですが、この10年余りの短い期間でさえ、道院に入門してくる拳士(子どもたち)の様子が変化してきています。道院設立当初は私自身の子どもの含め、やんちゃで元気な子どもが多く、運用法(乱捕)にもしっかりと取り組み、「育む拳法」とともに「鍛える拳法」も重視しながら修練に励んできました。

しかし、いま道院で修練している子どもたちをみると、大人しく思慮深い子、また発達に課題を抱える子どもの割合が増えてきたように思います。道院での修練についても、それぞれの個性をよく観察し理解することに努め、子どもでも一人の人格ある個人として尊厳を大

切にしながら柔軟に修練体系や方法を工夫するなど、より心がけるようになりました。最近「多様性」という言葉がよく使われるようになっていきます。そして、めざすべき社会の在り方として、誰もが互いに人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を互いに認め合える共生社会を実現することが言われています。少林寺拳法の原点である開祖の志、「人づくりによる国づくり」、「理想境建設」は、この共生社会の実現と同じことであると私は考えます。このような時代だからこそ、少林寺拳法の存在価値とは何か、その果たすべき社会的使命とは何かを、改めて確認し行動する時期に来ているのではないかと考えています。

前置きが長くなりましたが、大学の少林寺拳法部も様々な多様性のある学生が、それぞれの発心により決意をして、それぞれの目的を持って入部してきていると思います。個々の学生の思いが尊重され、大切にされることで、まずは卒業まで少林寺拳法を継続できるような環境を整えていくことが大切です。OBがそれを妨げるようなことはあってはならないことです。少林寺拳法部はあくまで現役の学生が主役です。彼ら彼女らが主体的に取り組んだその4年間は自信となり、その自信を糧として多様な社会にあっても活躍できる人材となってきたことは、多くのOBが立証してきたことではないでしょうか。

白蓮会には、現役の学生たちが自ら知恵を絞り主体的に取り組んでいることを尊重し、温かく見守っていくこと、そして資金的にも目に見える形で支援していくことが求められています。私も、現役員会としてお示しし賛同をいただいた趣意書に明記している「理念」と「ビジョン」に基づいて、会長を補佐し、役員・事務局のみなさまと協力しながら白蓮会をまとめ、現役学生を支えていく所存です。白蓮会会員のみなさまも、資金面を含めどうぞよろしくお願いいたします。

将来の可能性に溢れた現役学生拳士のみなさんが、少林寺拳法を楽しくまた厳しく修練ができるように、そして同世代の仲間として様々な議論し、お互いに仲間の個性を認め合い思いやりの心を持ちながら、道訓にある『同志 相親しみ、相援け、相譲り』という、かけがえのない貴重な体験を積み重ねることができる岡山大学少林寺拳法部であり続けてほしいと願っています。

2020年12月吉日

白蓮会 副会長
第22代 田中 豊

■東京支部長 都築 訓佳 第14代

第14代 東京支部長の都築です。

今回、白蓮会役員に再任されました。白蓮会はOB親睦の会ですが、現役の後輩たちへの応援、支援も強力に行っていきたいと思います。元気で隆盛な部活動こそ我々OBの励みであり、誇りです。東京では全国学生大会に出場する岡大後輩たちへの応援のため、OBが日本武道館に集まるようになって25年以上になります。自然と集まるOBOG応援団が後に東京支部となりました。東京支部は会費もなく、日本武道館での応援と昼食会のみを唯一の決まり事としています。日本武道館で毎年、後輩たちの姿を見られることはうれしいことです。昔は全国の壁は厚いなと感じていました。ところが、岡大も強くなり、何人も本戦に出られるようになり、上位入賞までするようになりました、さらに女子有段者で最優秀を取ったのは快挙でした。40～50名の部員を擁する国立大学の中では有数の強豪レベルにあると思います。ところが、今は残念ながら部員13人と衰退傾向にあるようです。数百人のOBOGが特に資金面で現役を支援できたらと思います。ハーバード大学はOBOGからの寄付で潤沢な資金が賄われ、大学を支援していることは有名です。

白蓮会の会費をきちんと集め、できるだけ多くを現役生の為に使いたいと考えています。たとえば新入部員には白蓮会から道着贈呈するなど、何か部員拡大への支援ができればと思います。

会員の皆さん、是非、後輩のために会費を納めてください。再び、隆盛の少林寺拳法部になるよう支援していきましょう。

■関西支部長 三浦 真 第20代

関西支部長に再任していただきました第20代 三浦真です。

ここ半年は、『白蓮会』はどのような団体であるべきか、そして、何を目指す団体なのかを再度考え直させていただいた期間だったと思います。

今回再任された役員にて Zoom 等での議論を繰り返し、以下の理念とビジョンを作成しました。

《理念》

岡山大学少林寺拳法部の幅広い世代にわたる全OB・OGが、少林寺拳法の精神と会員各々の価値観・人格を尊重することを基本として、お互いの親睦を深めることと、現役部員を尊重・見守り・包み・慈しみの眼差しと行動によって側面支援する活動を通じ、未永い部の発展と相互扶助に繋げる。

《ビジョン》

少林寺拳法発展の一翼を担う岡山大学少林寺拳法部のOB・OGとして、現役部員を側面支援する形で、少林寺拳法連盟本部や他大学少林寺拳法部とのつながりを維持・発展させつつ、会員各々が社会生活にて得た知見を活用して、会員相互の親睦を深めることで、各々の人生を豊かにするとともに、現役部員からも慕われ、現役部員がより良い拳士、より良い社会人として、成長・発展し、大きくはばたけるよう支援していける組織となる。

白蓮会関西支部は、白蓮会会長・副会長、東京支部長等役員の皆様と想いを同じくしながら、また、献身的に世話役をこなしていただいている事務局の皆様への敬意をもって、上記白蓮会の“理念”に則り、“ビジョン”に実現できる活動が続けていきたいと想っております。

少しでも多くのOB・OGが機会を見つけて、“互いにむつみあい”“物心ともに現役部員を支える活動”ができるよう、これからも活動してまいりたいと想いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

■事務局長 長井 実 第39代

この度は、会員皆様のご賛同を得まして、事務局長に再任させていただき誠にありがとうございました。39代の長井実でございます。まずもって、定期総会に関しまして会員の皆様には多々ご迷惑をおかけしましたことを、お詫び申し上げます。しかしながら皆様のご協力のもと無事定期総会を終えることができたことは大変ありがたく存じます。

事務局長に就任してからの数年間、種々の新たな試みを行い、よりよい白蓮会のあり方を模索し続けて参りました。時にはお叱りを受けることもありましたが、挑戦失くして成長はありません。皆様に再任していただいたことを励みに、白蓮会の目的に則って、会員皆様と現役部員皆様にとってよりよい白蓮会の姿を求め、より一層の努力と挑戦を続けて参ります。

今、社会は大きな変化の只中にあります。それは、我々白蓮会も、そして我々の第二の故郷である岡山大学少林寺拳法部も、例外ではありません。この変化は大きな苦難でもあります。しかし、この苦難はより高く羽ばたくための準備期間であると前向きにとらえ、この機に地盤をしっかりと固めて着実に成長を続け、難局を乗り越えていきたいと考えております。そのためには、会員皆様のご協力が欠かせません。そして、その前提として白蓮会が会員皆様に愛される会となるように尽力していく所存であります。皆様、事務局一同共々何卒よろしくお願いいたします。

■会計 東野 将伸 第45代

このたび、白蓮会にて会計を担当することとなりました、45代統制の東野将伸と申します。

会計の職務として、皆様からお預かりした会費を適正に管理し、会員・現役の双方にとって有意義なお金の使い方ができるよう、努力してまいります。会員の皆様におかれましては、白蓮会の活動をご理解いただき、無理のない範囲で会費を納入いただければ大変ありがたく存じます。なお、毎年HP上で公開する『旭影』などで各年の会計報告を行う予定ですので、よろしければご参照ください。

白蓮会のようなOBOG組織は、現役が部活動を行ううえで、絶対に必要不可欠な組織というわけではないかもしれません。しかし、白蓮会が現役部員の自由な活動を阻害しないよう細心の注意を払いつつ、物心両面での要望に応じていくことは、現役の部活動をより実り多いものにするのも間違いないと思います。現役部員の支援のために微力ながら働くことが、私がお世話になった先輩方への御恩返しにもなると考えています。

今後とも、皆様のご理解・ご協力を賜れますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

■会計監査 三宅 理恵 第45代

この度、会計監査を担当させていただくことになりました、45代の三宅理恵です。今年の9月に第2子となる女の子を授かり、3歳と0歳の姉妹の育児でバタバタと楽しい毎日を送っています。育児中、私がよく感じることは、一瞬と永遠です。子どもたちの今は一瞬で、こんなに無条件で慕ってくれるのも今だけなんだろうと嬉しくも寂しく思います。他方で、今を積み重ねて、一生子どもたちと一緒に時を重ねていくことができる喜びも日々感じています。

大学生のころ、これでもかと打ち込んでいた少林寺拳法ですが、卒業してからは関わる機会もなくなり、一抹の寂しさを抱いていました。今回、このような形で白蓮会に携わることができることを、とても嬉しく思います。

少林寺拳法に打ち込んだのは、大学4年間という短い一瞬ですが、少林寺拳法部で出会った素敵な同期との縁は切れずに今も続いています。一生の友達であり、仲間だと思っています。このような素敵な仲間に出会わせてくれた少林寺拳法部にも、とても感謝しています。白蓮会という縁を大切に、しっかり務めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。